

群 教 七	G01 - 03
	平 22. 242集

# 中学校国語科における 資料を活用した学習に関する調査研究

— 思考力・判断力・表現力の育成につながる指導の充実に向けて —

長期研修員 山田 康成

## 《研究の概要》

本研究は、思考力・判断力・表現力の育成につながる指導の充実に向けて、中学校国語科における資料を活用した学習に関して調査したものである。具体的には、資料を収集する学習や整理し選択する学習、資料をもとに考える学習、表現に生かす学習の四つを調査内容の柱とし、教師の指導の実態や意識、生徒の意識について調査を実施した。その結果、現状と課題が明らかとなり、指導の充実に向けての提言を行った。

**キーワード** 【国語—中 調査研究 資料活用 思考力 判断力 表現力】

## I 研究の背景と目的

### 1 現状と課題

文部科学省は、学習指導要領改訂の基本方針として「確かな学力の育成」を掲げ、「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむこと」が重要であるとした。これを受けて中学校学習指導要領解説国語編では、「教科書に掲げる教材に関連して学習を深化し拡充」したり、「内容、形態ともに多様な文章を読む」んだりするなど、知識・技能を活用した学習を一層重視している。このように、中学校国語科において、思考力・判断力・表現力を育成するためには、教科書だけではなく、資料を使った様々な学習が求められており、学校現場においても実践されていることがうかがえる。

一方、活用する力を問う「全国学力・学習状況調査【国語B】」においては、資料を「自分の表現に役立てる」など、資料の活用に関わる学力に課題があることが指摘され、授業の改善が求められている。このことから学校現場における資料を使った学習が、思考力・判断力・表現力の育成につながる学習としては、十分ではない可能性が高いことが予想されるため、現状を明らかにする必要がある。しかし、資料を活用した学習に関して、教師の指導の実態や意識について十分に調査されていない。

そこで、思考力・判断力・表現力の育成につながる指導の充実に向けて、中学校国語科における資料を活用した学習に関して、教師の指導の実態や意識について調査研究を行い、資料を活用した学習に対する現状と課題を明らかにすることが必要であると考えた。また、教師が資料を活用した指導をどのように行っているかによって、生徒の学習に対する意識も変わってくることが予測されるが、生徒の意識についても調査はほとんど行われていない。よって、生徒の意識について明らかにしていくことも必要である。

### 2 研究の目的

中学校国語科において、資料を活用した学習に関して、教師の指導の実態や意識、生徒の意識を調査することにより、思考力・判断力・表現力の育成につながる資料を活用した学習に対する現状と課題を明らかにし、指導の充実に向けての提言を行う。

## II 仮説

資料を収集する学習、資料を整理し選択する学習、資料をもとに考える学習、資料を表現に生かす学習の四つの内容について、教師の指導の実態や意識、生徒の意識を調査することにより、資料を活用した学習に対する現状と課題が明らかとなるだろう。

### Ⅲ 調査対象

群馬県内の公立中学校172校から、中規模以上の20校を抽出し、各学年の国語担当教師及びその教師が受けもつクラスの生徒に対して質問紙調査を実施する。標本数は、教師が56人、生徒が1905人である。

### Ⅳ 調査研究の内容

#### 1 調査研究の基本的な考え方

本調査研究では、資料を活用した学習の内容を、中学校学習指導要領解説国語編とも照らし合わせ、材料や情報を読み取るための資料を収集する学習、収集した資料を整理し選択する学習、資料をもとに考える学習、資料を表現に生かす学習の四つに分け、調査内容の柱とした。

なお、本調査研究における資料とは、課題を研究したり、解決したりするために用いる文や文章及び図や表、数量データなどとする。

##### (1) 資料を収集する学習に関して

中学校学習指導要領解説国語編では、「自分の考えをまとめる」手だてとして、話したり書いたりする材料としての資料を収集したり、「目的に応じて必要な情報」を集める方法を身に付けたりする指導を求めている。これらは、資料を活用する学習の第一段階として、欠かすことのできないものである。また、効率よく必要な情報を集めるためには、必要な情報の有無を、本の表題や目次、新聞の見出し等から判断するといった「資料の特性を生かした読み方」を身に付ける必要がある。以上のことから「資料の収集方法」と「資料の特性を生かした読み方」についての質問を設定した。

##### (2) 資料を整理し選択する学習に関して

中学校学習指導要領解説国語編では、「集めた材料を分類するなどして整理する」指導を求めている。生徒は「目的や意図に応じて」判断し、必要な資料を整理し選択する。加えて、整理し選択する過程で、自分の考えを明確にしていく。このような学習活動を通して思考力や判断力がはぐくまれると考える。また、「『適切な情報』を得るためには、集めた情報について、その真偽や適否を見極めながら」資料を整理し選択することを求めている。以上のことから、「資料の整理・選択」と「資料の信頼性」についての質問を設定した。

##### (3) 資料をもとに考える学習に関して

中学校学習指導要領解説国語編では、「図表などとの関連を考えながら」文章を読むといった言語活動例が挙げられている。図や表、グラフなどの資料と文章との関連を考える学習活動を通して、思考力がはぐくまれると考える。また、「自分の見方や考え方を広くする」とは、「新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考え」たりすることであるとしている。一つの文章だけではなく複数の文章や資料を比較しながら読み、「新しい考え方を知ったり、自分の考えを再構築したりする」活動を通して、思考力がはぐくまれると考える。さらに、「『自分の考えをまとめる』際には、得た情報をどのように引用すればよいかを考えさせることなどを指導することが大切である」としている。資料から読み取れた内容をそのまま書き写すのではなく、自分の考えをまとめる上で内容のどこが必要な部分なのかを考え、判断する学習活動を通して、思考力や判断力がはぐくまれると考える。以上のことから「資料と文章との関連」と「資料の解釈」についての質問を設定した。

##### (4) 資料を表現に生かす学習に関して

中学校学習指導要領解説国語編では、「様々な形態の文章の構成や展開、表現の特徴を分析的にとらえ、その工夫や効果について自分の考えをもつ」ような学習の指導を求めている。表現の「目的や意図を考えたり、その効果について」考えたり、学んだことを自分の表現に役立てようしたりすることで、思考力や表現力がはぐくまれると考える。また、「自分の考えや気持ちを根拠を明確にして」表現する学習活動や「図表などを用いた説明や記録の文章を書く」学習の指導、「資料や機器などを効果的に活用して話す」学習の指導を求めている。根拠を明確にして表現したり、様々

な資料の効果的な活用について考えて表現したりする学習活動を通して、思考力・判断力・表現力  
 がはぐくまれると考える。以上のことから、「資料の表現の工夫」と「資料を使った効果的な表現」  
 についての質問を設定した。

## 2 具体的な内容

調査内容の四つの柱である「資料を収集する学習」「資料を整理し選択する学習」「資料をもとに  
 考える学習」「資料を表現に生かす学習」に関して、それぞれの具体的な内容と明らかにしたいこと  
 は表1の通りである。

表1 具体的な調査内容

◆資料を収集する学習に関して	
<p>○資料の収集方法 本や新聞・雑誌、インターネットなど多様な方法で必要な情報を収集する学習について、教師の指導の実態及び意識、生徒の意識を調査する。</p>	<p>明らかにしたいこと 教師は必要な情報を多様な方法で収集するための指導を行っているか、必要があると考えているか。また、生徒は多様な方法で情報を収集していると考えているか。</p>
<p>○資料の特性を生かした読み方 本の表題や目次、新聞の見出しなどから必要な情報があるかを判断する学習について、教師の指導の実態及び意識、生徒の意識を調査する。</p>	<p>明らかにしたいこと 教師は資料の特性を生かした読み方についての指導を行っているか、必要があると考えているか。また、生徒は本の表題や目次などから必要な情報の有無を判断していると考えているか。</p>
◆資料を整理し選択する学習に関して	
<p>○資料の整理・選択 目的や相手に応じて、資料を整理し選択する学習について、教師の指導の実態及び意識、生徒の意識を調査する。</p>	<p>明らかにしたいこと 教師は目的や相手に応じて、資料を整理し選択する指導を行っているか、必要があると考えているか。また、生徒は目的や相手に応じて資料を整理し選択していると考えているか。</p>
<p>○資料の信頼性 資料を整理し選択する上で、情報の出所などをもとに資料の信頼性を確かめる学習について、教師の指導の実態及び意識、生徒の意識を調査する。</p>	<p>明らかにしたいこと 教師は収集した資料の信頼性についての指導を行っているか、必要があると考えているか。また、生徒は資料の信頼性を確かめていると考えているか。</p>
◆資料をもとに考える学習に関して	
<p>○資料と文章との関連 図や表、グラフがどのように文章と関連しているか考える学習について、教師の指導の実態及び意識、生徒の意識を調査する。</p>	<p>明らかにしたいこと 教師は図表と文章との関連を確認する指導を行っているか、必要があると考えているか。また、生徒は図表と文章とを照らし合わせて読んでいると考えているか。</p>
<p>○資料の解釈 資料の内容をまとめたり、意見や主張の異なる複数の資料を用いたりして、考えを深める学習について、教師の指導の実態及び意識、生徒の意識を調査する。</p>	<p>明らかにしたいこと 教師は自分の言葉で資料をまとめたり、異なる意見や主張の資料を読んだりすることで、考えを深める指導を行っているか、必要があると考えているか。また、生徒は資料の内容を自分の言葉でまとめたり、異なる意見や主張の資料を読んだりしていると考えているか。</p>
◆資料を表現に生かす学習に関して	
<p>○資料の表現の工夫 評論や小説、手紙やパンフレットなど様々な形態の資料を比較することで、表現の工夫や効果を考え、自分の表現に役立てる学習について、教師の指導の実態及び意識、生徒の意識を調査する。</p>	<p>明らかにしたいこと 教師は様々な資料を比較することで表現の工夫や効果について考える指導を行っているか、必要があると考えているか。また、生徒は様々な資料を比較することで、自分の表現に役立てていると考えているか。</p>
<p>○資料を使った効果的な表現 意見や考えを表現する場面で、資料をその正当性や妥当性の根拠に引用したり、図や表などの資料を使ったりして、効果的に表現する学習について、教師の指導の実態及び意識、生徒の意識を調査する。</p>	<p>明らかにしたいこと 教師は資料を根拠に引用したり、図表などの資料を使ったりすることで、効果的に表現する指導を行っているか、必要があると考えているか。また、生徒は資料を引用したり、図表などの資料を使ったりして、効果的に表現していると考えているか。</p>

## V 調査の実施

### 1 調査票

教師、生徒ともに、質問紙による調査とし、教師用には、4段階尺度法、複数選択法及び自由記述法を取り入れ、生徒には、4段階尺度法、複数法を取り入れたSQSによるマーク方式を採用する。

### 2 データ処理の方針と分析

資料を活用した学習に関する「具体的な内容」に即して、「教師の指導の実態」「教師の意識」及び「生徒の意識」についてデータ処理を行い、分析する。

また、クラスごとに「教師の指導の実態」とその教師の担当するクラスの「生徒の意識」とを集計し、その関係を $\chi^2$ 検定を用いて分析する。なお、本研究では、検定によって求められた値(p)が、有意水準5%より小さい場合を、関連が見られるものとする。また、10%より大きい場合を、関連が見られないものとする。

## VI 研究の結果

### 1 資料を収集する学習に関して

#### (1) 資料の収集方法

「国語科の学習において、必要な材料や情報などの資料を生徒にも収集させる指導」について、91.1%の教師が「行っている」と回答した。資料を収集させる指導は、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」いずれの領域の学習においても行われていることが分かった。

「国語科の学習で必要な資料を収集する方法」に対する生徒の回答をグラフにしたものが図1である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」いずれの領域においても、インターネットを収集方法として挙げる生徒が多い。次いで、やや人数が減って本となり、さらに減って新聞・雑誌となっている。

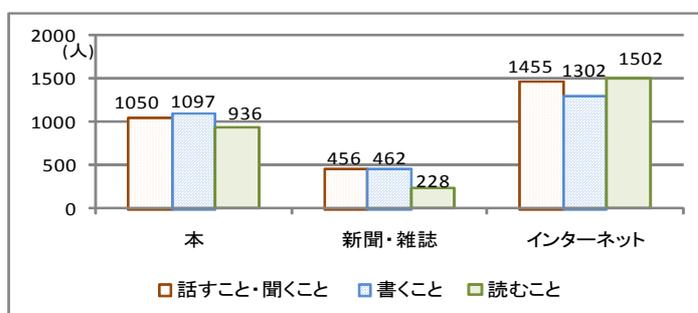


図1 資料の収集方法に対する生徒の回答（複数回答可）

#### (2) 資料の特性を生かした読み方

「資料の特性を生かした読み方」の指導に対する教師の回答をグラフにしたものが図2である。資料を収集する学習の指導を行っていると回答した教師のうち（無回答3人を除く）、インターネットの特性を生かした読み方の指導を「行っている・時々行っている」と回答した数が一番多く、60.4%である。次いで本（43.7%）、新聞（25.0%）の順となる。

一方、本、新聞、インターネットそれぞれの資料の特性を生かした読み方で、「必要な情報があるかどうか判断している」という設問に対する生徒の回答をグラフにしたものが図3である。

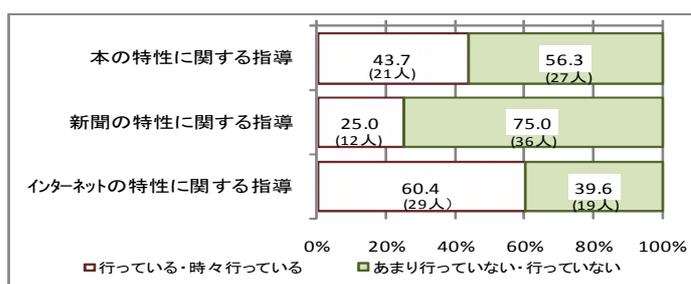


図2 資料の特性を生かした情報の収集に対する教師の回答

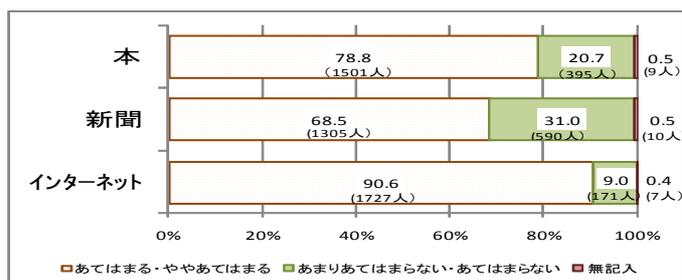


図3 資料の特性を生かした情報の収集に対する生徒の回答

インターネットでは、90.6%が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。しかし、本や新聞では、それぞれ78.8%、68.5%とインターネットに比べて少ない。

## 2 資料を整理し選択する学習に関して

### (1) 資料の整理・選択

「対象や目的を明確にした上で、資料を整理し選択する学習」に対する教師の回答をグラフにしたものが図4である。「目的や相手に応じて、資料の整理・選択をする学習」の指導を58.9%が「行っている・時々行っている」と回答している（図4上段）。また、「目的や相手に応じて、集めた資料を整理・選択する学習を行う必要があると思うか」という設問に96.4%が「そう思う・ややそう思う」と回答している（図4下段）。一方、「伝えたい内容や相手に応じて、集めた資料の選択を行っている」という設問に対する生徒の回答をグラフにしたものが図5である。70.6%が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。

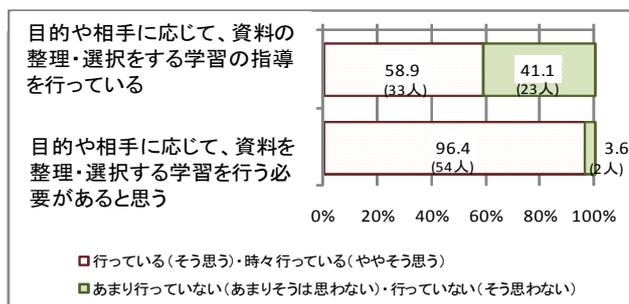


図4 整理し選択する学習に対する教師の回答

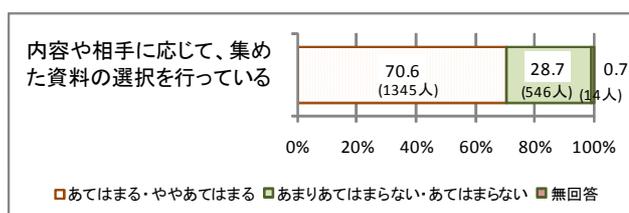


図5 資料を整理し選択する学習に対する生徒の回答

### (2) 資料の信頼性の確認

「資料を整理し選択する上で、情報の出所などをもとに資料の信頼性を確かめる学習」に対する教師の回答をグラフにしたものが図6である。「筆者や発行年月日、Webサイトの発信元などを手がかりに、資料から得た情報が信頼できるのか、確認する学習」の指導を16.1%が、「行っている・時々行っている」と回答している（図6上段）。また、「収集した資料の出所などから、資料の信頼性について判断する学習を行う必要があると思うか」という設問に、89.3%が「そう思う・ややそう思う」と回答している（図6下段）。一方、「得た情報が信頼できるかを、別の資料の情報と比較して確かめている」という設問に対する生徒の回答を集計した結果、46.4%が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。

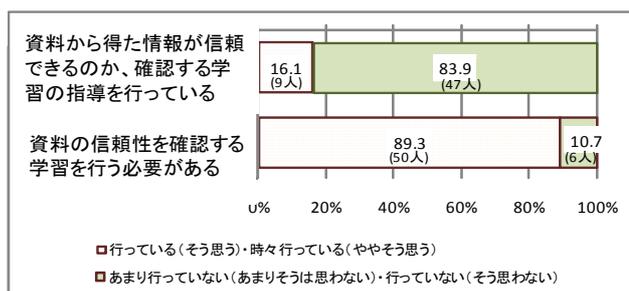


図6 資料の信頼性を確認する学習に対する教師の回答

## 3 資料をもとに考える学習に関して

### (1) 資料と文章との関連

「図や表、グラフが文章とどのように関連しているか考える学習」に対する教師の回答をグラフにしたものが図7である。「文章の解説や補足などとして、図や表、グラフが文章とどのように関連しているか確認する学習」の指導を、53.6%が「行っている・時々行っている」と回答している（図7上段）。また、「文章の解説や補足などとして、図や表、グラフが文章とどのように関連しているか確認する学習を行う必要があると思うか」という設問に94.6%が「そう思う・ややそう思う」と回答している（図7下段）。一方、「文章の中に図や表、グラフがあるときには、文章と照らし合わせて読んでいる」という設問に対する生徒の回答をグラフにしたも

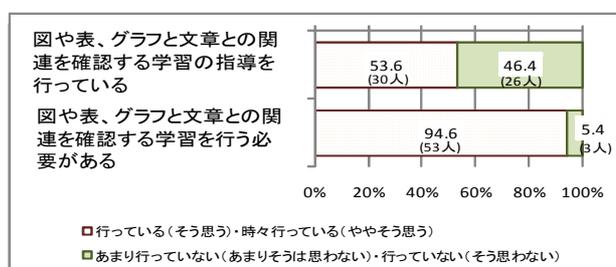


図7 図と文章との関連を確認する学習に対する教師の回答

「文章の中に図や表、グラフがあるときには、文章と照らし合わせて読んでいる」という設問に対する生徒の回答をグラフにしたも

のが図8である。71.1%が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。

さらに、この学習の指導を「行っている・時々行っている」と回答した教師が担当している生徒と、指導を「あまり行っていない・行っていない」と回答した教師が担当している生徒とを集計し、検定した結果、関連がやや見られた ( $p=0.0595$ )。

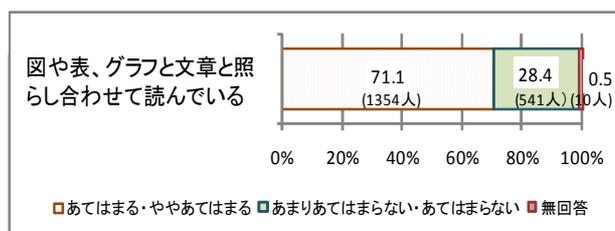


図8 図と文章の関連を確認する学習に対する生徒の回答

## (2) 資料の解釈

「資料の内容をまとめることで考えを深める学習」では、「資料から読み取れた内容をまとめるとき、資料の言葉をそのまま使うのではなく、自分の言葉でまとめる学習」の指導を教師の71.4%が「行っている・時々行っている」と回答している。一方、「資料から読み取れた内容をまとめるとき、資料の文章をそのまま使うのではなく、自分の言葉でまとめる」という設問に対して、生徒の66.2%が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。

さらに、この学習の指導を「行っている・時々行っている」と回答した教師が担当している生徒と、指導を「あまり行っていない・行っていない」と回答した教師が担当している生徒とを集計し、検定した結果、関連が見られた ( $p=0.0157$ )。

次に、「意見や主張の異なる複数の資料を用いることで、考えを深める学習」に対する教師の回答をグラフにしたものが図9である。「見方を広げたり、考えを深めたりするために、一つのテーマに対して意見や主張の異なる資料を用いる学習」の指導を、53.6%が「行っている・時々行っている」と回答している(図9上段)。また、「見方を広げたり、考えを深めたりするために、一つのテーマに対して意見や主張の異なる資料を用いる学習を行う必要があるか」という設問に94.6%が「そう思う・ややそう思う」と回答している(図9下段)。一方、「考えを深めるために、意見や主張の異なる資料も読んでいる」という設問に対する生徒の回答をグラフにしたものが図10である。43.0%の生徒が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。

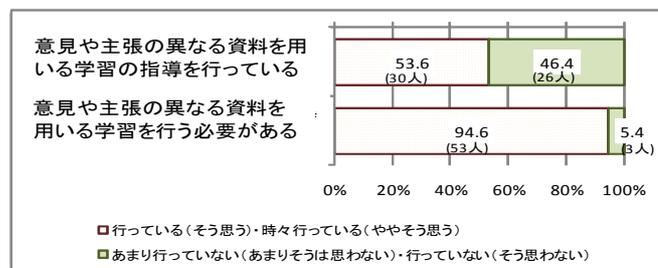


図9 意見の異なる資料を用いる学習に対する教師の回答

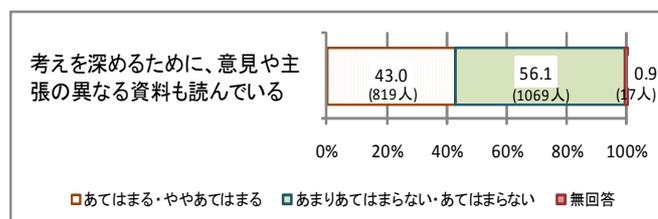


図10 意見の異なる資料を用いる学習に対する生徒の回答

さらに、この学習の指導を「行っている・時々行っている」と回答した教師が担当している生徒と、指導を「あまり行っていない・行っていない」と回答した教師が担当している生徒とを集計し、検定した結果、関連は見られなかった ( $p=0.2727$ )。

## 4 資料を表現に生かす学習に関して

### (1) 資料の表現の工夫

「様々な形態の資料を比較することで、表現の工夫や効果を考え、自分の表現に役立てる学習」に対する教師の回答をグラフにしたものが、図11である。「様々な形態の資料を比較しながら、表現の工夫や効果について考え、自分の表現に役立てる学習」

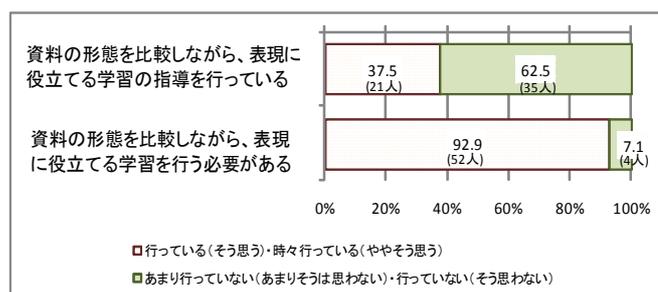


図11 資料を表現に生かす学習に対する教師の回答

の指導を37.5%が「行っている・時々行っている」と回答している（図11上段）。また、「様々な形態の資料を比較しながら、表現の工夫や効果について考え、自分の表現に役立てる学習を行う必要があると思うか」という設問に92.9%が「そう思う・ややそう思う」と回答している（図11下段）。

一方、「文章の書き方など資料の表現を見本にして、自分の表現に役立てている」という設問に対する生徒の回答をグラフにしたものが図12である。70.8%が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。

さらに、この学習の指導を「行っている・時々行っている」と回答した教師が担当している生徒と、指導を「あまり行っていない・行っていない」と回答した教師が担当している生徒とを集計し、検定した結果、関連は見られなかった（ $p=0.89391$ ）。

## (2) 資料を使った効果的な表現

「自分の考えや意見を表現する場面で、資料をその正当性や妥当性の根拠に引用することで、効果的に表現する学習」に対する教師の回答をグラフにしたものが、図13である。「自分の考えや意見を表現するときに、その正当性や妥当性の根拠として、資料を引用する学習」の指導を、58.9%が「行っている・時々行っている」と回答している（図13上段）。

また、「自分の考えや意見を表現するとき、その正当性や妥当性の根拠として資料を引用する学習を行う必要があると思うか」という設問に100%が「そう思う・ややそう思う」と回答している（図13下段）。「資料を引用するときには、出典を明示するように生徒に指導を行っている」という設問に対して教師の67.9%が「行っている・時々行っている」と回答している。一方、「自分の考えや意見の根拠に集めた資料を使っている」という設問に対する生徒の回答をグラフにしたものが図14である。63.4%が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答している。

さらに、この学習の指導を「行っている・時々行っている」と回答した教師が担当している生徒と、指導を「あまり行っていない・行っていない」と回答した教師が担当している生徒とを集計し、検定した結果、関連は見られなかった（ $p=0.5618$ ）。

次に、「意見や考えを表現する場面で、図や表などに資料を使うことで、効果的に表現する学習」に対する教師の回答をグラフにしたものが図15である。「相手に分かりやすく伝えるために、図や表、グラフなどを効果的に使って表現する学習」の指導を、64.3%が「行っている・時々行っている」と回答している（図15上段）。また、「相手に分かりやすく伝えるために、図や表、グラフなどを効果的に使って表現する学習を行う必要があると思うか」という設問に、98.2%の教師が「そう思う・ややそう思う」と回答している（図15下段）。一方、「自分の意見などを相手に分かりやすく伝えるために、図や表、グラフなどを使って発表し

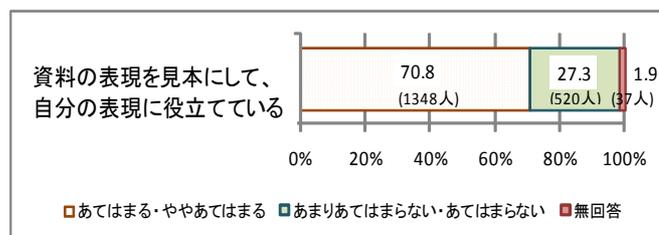


図12 資料を表現に生かす学習に対する生徒の回答

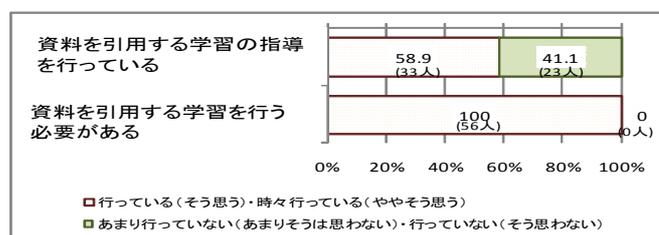


図13 資料を引用する学習に対する教師の回答

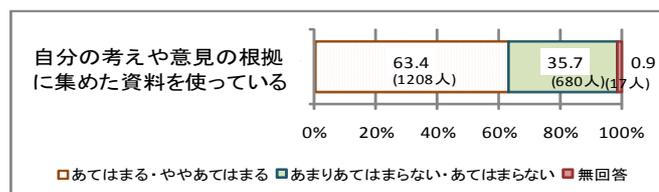


図14 資料を引用する学習に対する生徒の回答

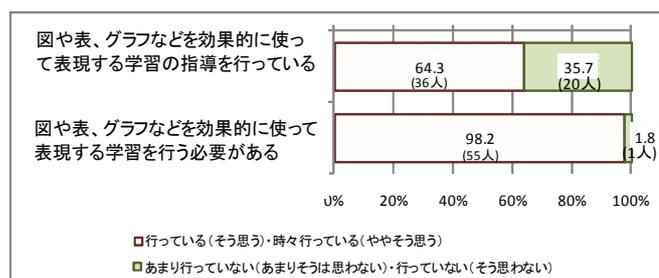


図15 教師の資料を使って表現する学習に対する回答

ている」という設問に対する生徒の回答をグラフにしたものが図16である。61.4%が「あてはまる・ややあてはまる」と回答している。

さらに、この学習の指導を「行っている・時々行っている」と回答した教師が担当している生徒と、指導を「あまり行っていない・行っていない」と回答した教師が担当している生徒とを集計し、検定した結果、関連は見られなかった（ $p=0.7452$ ）。

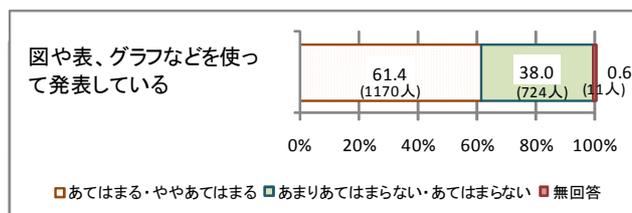


図16 生徒の資料を使って発表する学習に対する回答

## Ⅶ 研究の考察

### 1 資料を収集する学習に関して

調査した教師の約90%（56人中51人）が国語科の学習に必要な材料や情報などの「資料を収集する学習」の指導を行っていると回答しているが、「行っていない」と回答した教師もいた。「資料を収集する学習」は、「資料を活用する学習」の第一段階であり、「資料を整理し選択する学習」、「資料をもとに考える学習」、「資料を表現に生かす学習」を行うためにも、欠かすことができない。

ただ、「必要だとは思いますが時間数が限られているので難しい」と自由記述に見られたように、「資料を収集する学習」は時間を要する。この学習の一層の充実を図るためには、単元ごとに毎回行うのではなく、学習を行う単元や題材を焦点化して年間計画に組み込むなど、計画的に進めていくことが大切である。

材料や情報などの「資料を収集する方法」として、インターネットを使って情報を収集すると回答している生徒の人数に比べ、本や新聞・雑誌を使って情報を収集すると回答している生徒の数は少なく、生徒の収集方法がインターネットに偏っているものと考えられる。話したり書いたりする内容や目的によって、必要な材料や情報は変わってくる。そのために、収集する方法も内容や目的に応じて、それに適した方法に変えていかなくてはならない。

様々な方法で資料の収集を行っていくには、司書教諭や学校司書と連携し、学校図書館の活用を図りながら、本や新聞・雑誌を使った資料の収集を行わせる機会も増やしていく必要がある。

また、「資料の特性を生かした読み方」について、教師の回答からは、資料の特性を生かした読み方についての指導が十分ではないことが明らかになった。さらに、生徒の回答からはインターネットに比べ、本や新聞の特性を生かした読み方を十分に理解していないことが推測できる。そこで、本の表題や目次、索引等、新聞の見出しやリード文等から必要な情報があるかを判断させ、効率的に情報を収集させる指導を充実させることが大切である。

### 2 資料を整理し選択する学習に関して

収集した資料を整理し選択することで、事柄のまとまりや順序、自分の考えが明確になってくる。よって、資料を目的や相手に応じて整理し選択する学習は欠かせない。本調査では、学習の指導を「行っている」と回答した教師は60%未満にとどまっている。

一方で、生徒の約70%は資料を整理し選択していると回答している。指導を一層充実するためには、資料を「何について」、「だれに向けて」、「何のために」用いるのかを、生徒にしっかりと理解させ、さらに、必要な部分に印をさせたり、抜き書きさせたりするなど目的に応じて必要な情報を読み取らせながら、資料を整理し選択させていくことが大切である（図17）。

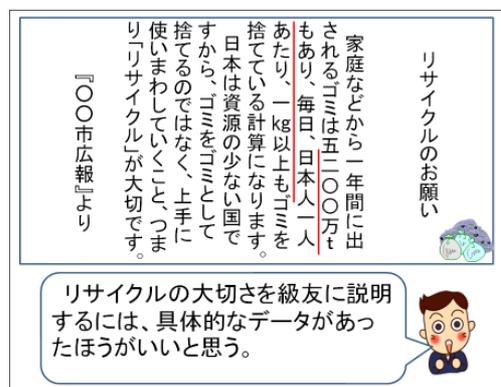


図17 資料を整理し選択する学習例

ただ、せっかく集めた資料も、その資料が信頼できる適切なものではなくては意味がない。調査の結果、「資料の信頼性」に関する学習の指導がほとんど実施されていないことが明らかになった。本や新聞・雑誌、インターネット、テレビなどから様々な情報が発信される現在、信頼できる確かな情報かどうかを見極める能力は、国語科を含めすべての教科ではぐくんでいくことが求められる。そのためにはまず、筆者名など集めた資料の出所をしっかりと確認し、他の資料と比べ、その資料が信頼に値するかを確認する学習を必ず行うよう心がけなくてはならない。

### 3 資料をもとに考える学習に関して

「図や表、グラフなどの資料と文章との関連を確認させる」学習の指導を約50%の教師が「行っている」と回答している。一方で生徒の約70%は「図や表、グラフと文章を照らし合わせて読んでいる」と回答しており、教師に比べ約20ポイント高い値となっている。これは、国語科以外の教科での指導が影響を与えていると考えられる。ただし、他教科では図や表を的確に読み取る学習を行うことが多いのに対して、国語科ではそれに加え、図や表、グラフが文章の補足や解説として文章のどの部分と関連しているかを確認する学習を行う必要がある。

「資料の内容をまとめることで、考えを深める学習」において、教師と生徒の回答をクロス集計した結果、関連が見られたことから、教師の指導に対して、生徒が学習のねらいや意義を理解し、学習に生かしていることが推測できる。

「意見の異なる資料を使って考えを深める学習」の指導を約50%の教師が「行っていない」と回答しており、指導が十分に行われていないことが明らかになった。一方、意見の異なる資料を読んでいると回答している生徒の割合も約40%と低い。また、教師と生徒の回答をクロス集計した結果、関連は見られなかった。このことから、指導は行っているものの、効果的な指導となっていないものと考えられる。指導を一層充実するためには、ただ意見や主張の異なる資料を使うだけではなく、見方や考え方を広くするという学習のねらいをしっかりと生徒に理解させた上で指導を行う必要がある。

一つの文章では気が付かないことも、複数の文章を比較しながら読むことで、物事の見方が変わったり、自分なりの考えをもてるようになっていたりすることがある。例えば、同じ事件を扱った記事でも新聞社によっては意見や主張が異なっていることがある。このような資料を比較することで、見方が広がるとともに、それを発表し合うことで生徒の考えが深まることが期待できる(図18)。また、教科書とは違った意見や主張を書いた文章を取り上げることも、考えを深める上で有効である。

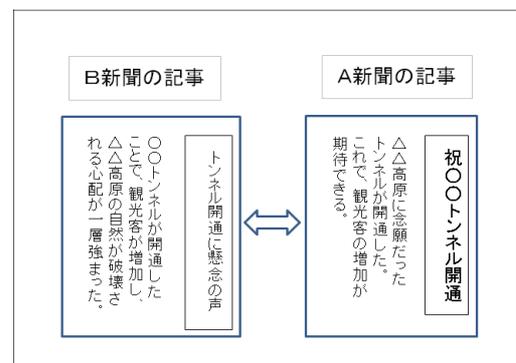


図18 意見の異なる資料を比較する学習例

### 4 資料を表現に生かす学習に関して

「資料を自分の表現に役立てる学習」では、約40%の教師がこの学習の指導を行っていることが明らかになった。一方で、生徒の約70%以上が「資料の表現を見本にして、自分の表現に役立てている」と回答している。

約70%以上の生徒は資料を自分の表現に役立てていると回答していることから、自分の表現に役立てる方法を指導することで、学習の成果が一層高まることが期待できる。

様々な形態の資料を比較しながら読むことにより、構成や展開、表現の特徴等の違いが分かってくることもある。複数の資料を比較し、生徒の目的や意図に応じた表現方法に気付かせ、それを自分の表現の参考にさせるような学習を取り入れることが大切である(図19)。

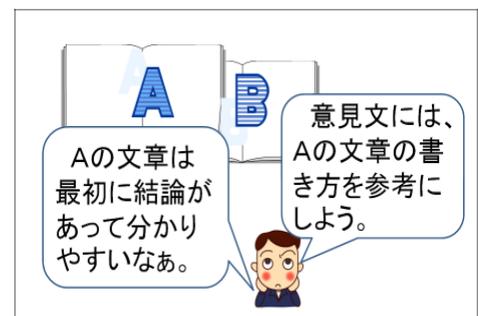


図19 資料を表現に役立てる学習例

「資料を引用することで、効果的に表現する学習」では、約60%の教師が指導を行っているとは回答しているが、教師と生徒の回答をクロス集計した結果、関連は見られなかった。また、「図や表、グラフなどを効果的に使って効果的に表現する学習」では、約70%近くの教師が指導を行っているとは回答しているが、教師と生徒の回答をクロス集計した結果、関連は見られなかった。このことから、指導は行っているものの、効果的な指導となっていないことが考えられる。

一方で、「根拠に集めた資料を使っている」、「図や表、グラフを使って発表している」とそれぞれ約60%以上の生徒が回答している。これは、国語科以外の教科での指導が影響を与えていると考えられる。そのため、他教科や総合的な学習の時間と連携を図り、国語科でも「資料の引用の仕方」や「資料の作成方法」、「機器の活用方法」といった資料の使い方、発表の仕方などを指導すべきである。

効果的に表現する学習を一層充実するためには、見本や模範例を示すなどして、資料を使って表現する方法を、生徒が理解した上で、学習活動に臨むことが大切である。また、作品の完成に向け、中間発表のような形で発表させるなどして、分かりやすい発表になるように、お互いに発表を見せ合い、改善点を指摘し合う学習を行っていくことも有効であろう。

## VIII 研究のまとめ

### 1 成果

- 国語科における資料を活用した学習に関して、「資料を収集する学習」や「資料を整理し選択する学習」、「資料をもとに考える学習」、「資料を表現に生かす学習」それぞれについて、指導が十分に行われていないことが明らかになった。
- 教師による指導の実態にはばらつきが見られるものの、多くの教師が「資料を活用した学習を行っていかなくてはならない」と認識していることが明らかとなり、効果的な指導方法などを紹介することで、指導の改善・充実が期待できる。

これらの結果より、中学校国語科における思考力・判断力・表現力の育成につながる指導の充実に向けて、以下の四つを提言する。

#### 提言

- 資料を収集する学習では、資料の特性を踏まえ、様々な資料から情報を収集する学習活動を計画的に取り入れましょう。
- 資料を整理し選択する学習では、資料を「何について」、「だれに向けて」、「何のために」用いるかをしっかり提示してから、資料を整理し選択する学習を行いましょ。なお、資料を整理し選択するときには、資料の信頼性についての指導も必ず行いましょ。
- 資料をもとに考える学習では、図や表、グラフと文章との関連を考える学習を行いましょ。また、生徒が自分の考えをもったり深めたりすることができるように、複数の資料を比べる学習を取り入れましょ。
- 資料を表現に生かす学習では、生徒に複数の資料を比較させるなどして、資料の表現を自分の表現の参考とさせましょ。また、効果的な表現の見本や模範例を示した上で、学習活動に取り組ませましょ。

### 2 課題

今後は、本調査で得られた結果を基本資料とし、「資料を活用した学習」における効果的な指導方法を明らかにするために、資料を活用する力を生徒がどれくらい身に付けているか、教師がどのような授業を行っているかなど、具体的な調査を行う必要があると考える。